



昭和十三年十一月十一日

時局特報

(第四十二號)

極秘

臺灣總督官房外務部

主要資料名略號

	Canton Daily Sun. D. ....	C. D. S.
	China Weekly Review. W. ....	C. W. R.
	North China Daily News. D. ....	N. C. D. N.
	South China Morning Post. D. ....	S. C. M. P.
支 那	新 聞 報、 日、 .....	新聞報
	申 報、 日、 .....	申 報
	廣東七十二行商報、 日、 .....	廣 商 報
	廣 州 共 和 報、 日、 .....	廣 和 報
	Manila Daily Bulletin. D. ....	M. D. B.
比 律 賓	Philippine Herald. D. ....	P. H.
	Tribune. D. ....	T.
	Opinion D. ....	O.
印 度 支 那	Courrier d'Haiphong. D. ....	C. d. H.
暹 羅	Bangkok Times. D. ....	B. T.
	Siam Chronicle. D. ....	S. C.
馬 來	Singapore Free Press. D. ....	S. F. P.
	Straits Times. D. ....	S. T.
蘭 領 印 度	Bataviasch Nieuwsblad. D. ....	B. N.
	Soerabaiasch Handelsblad. D. ....	S. H.
其 他	Asie Française (Paris) M. ....	A. F.
	Economist (London) W. ....	E.
	France-Outre-Mer (Paris) ....	F. O. M.
	London Times. W. ....	L. T.
	New York Times. D. ....	N. Y. T.
	Nieuw Rotterdamache Courant. D. ....	N. R. C.
	Statist. (London) W. ....	S.

(備 考) D.- Daily, W.- Weekly

日.- 日 刊

支 那 . . . . . 一

- 一、胡適の支那必勝論
- 二、敵軍漳泉地方に色氣あり
- 三、龍雲と陳濟
- 四、臺灣人よ歸つて来い
- 五、華僑の上半年送金額は三億元に達す
- 六、汪、孔の重慶入りとポケット政府
- 七、抗戦最中の福建省民
- 八、宋慶齡船中に於て奸人を擒にする
- 九、泉州は開放後閩南の商業中心地となる
- 十、第四路軍の新陣容

臺灣總督官房外事課

英領馬來 . . . . . 二七

- 一、華僑抗戰贖金三千三百萬元に達す
- 二、双十節當日新嘉坡に於ける華僑大會談
- 三、臺灣の大根據地
- 四、英國長距離爆撃機五臺來星

タイプライター用紙

(日本標準規格B4)

## 一、胡適の支那必勝論

胡適（之）は過般自ら支那の國民文化使節として、アメリカ合衆國へ渡航したが、彼はあちらで同國人士の熱烈な歓迎を受けた由である。最近胡は米國より渡英し、到る處で講演をやつたが、泰西各地の新聞は筆を揃へて、支那近代の聖人として激賞した趣である。胡は近日北京大學校長蔣夢麟に私信を寄せて來たが、之には各國現下の外交關係並に支那對日抗戰の反響等を詳しく述べてあつたと言はれるが、今其の要點をピック・アップして、讀者諸君に告げることとする。

支那國のやうな自立出来る國家は、假令どうあつても決して日本に依つて、其の儘生食されてしまふやうな事はない。即ち今日の國際關係から言へば、若し假りに支那が減セシてしまつ

## 臺灣總督官房外事課

たら、全世界は忽ち勢力均衡を失ふこととなるから、如何なる一國でも絶対に、情勢の斯く發展して行くのを承知しないだらう。按ずるに、世界列國は支那の對日抗戰以來物心の何れか勘なからず、支那を後援して來たが、其の主要な理由も詮ずるところ、之に因由するものであると解釋することが出来る。併し乍ら此の種國際間の援助とても、吾人は餘りに之を期待するに當らない。譬へば、吾人は英、米、佛、蘇の諸國に對して、支那と同一の戦線に立つて貰ふとか、又は支那と共同戦線を張つて貰ふとか云ふやうなことは之を望み難い。蓋し是等諸國は力の比重並に其の相互間に於ける牽制力を異にし、且つ一日と雖も之が均衡維持を忽緒に付することが出来ない。而して最近の世界大勢から觀れば、英米諸國は孰れも臆はずして、日本に勝ちたい念願から着々其の準備を進めつつあるが、彼等としては必死の努力を以て、其の自衛的國防の建設を完成し、依て以

て侵略者を威嚇する心算であるかに見受けられる。例せば、海軍力補強の爲めに、英米兩國は最近孰れも、建艦計畫に没頭しつつあるから、若し今後何等かの情勢激變がなければ、西曆一九四〇年には、太平洋上に於ける日英米三國の海軍力比重は、完全に面目を一新することであらう。元來海軍は最も實力に重點を置くべきもので、即ち海軍を主力とする戦争は、斯道専門家の觀測に依つて、大體其の勝敗の歸屬を判定することが出来る。事情此の通りであるから、若し吾人が何處までも長期抗戰の態度を堅持し、一面敵人をして國境を蕩盡せしめ、他面英米兩國をして徐ろに強力な海軍建設を遂行せしめて置けば、一九四〇年の曉には日本がいくら横暴を逞しくしやうとしても出來ない相談である。最近英米諸國の海軍作戰本部では幹部の出入がとて頻繁となつて來たやうだが之は恰も敍上の重要な傾向を物語るものと思はれる。さりながら吾人としては固より對日

### 臺灣總督官房外事課

抗戰そのものを他人に依頼することは出來ない。尤も自分に有利な環境を選択し、有效な國際的援助を希求することは、結局最後の勝利に到達する最も重要な因素であらうと。

(一九・一二一 新聞日報)

### 二、敵軍漳泉地方に色氣あり

(泉州通信) 敵軍は過般廈門を占領して以來、屢々南支諸省を犯すべく企んで來たが、最近記者が入手した情報に據れば過日東京に於て軍事會議が開かれ、其の席上で、廈門並に金門嶋駐屯の敵軍をして、閩粵沿海地方を侵略せしめることに決定した趣である。是かあらんか敵軍は八月三十一日廈門へ多數の増援部隊を輸送して來た處、彼等敵兵は孰れも嬉々として上陸したとか言はれる。又支那沿海地方より飛來した敵機は、意氣天を衝かんばかりの姿で、岩並に永春各縣を偵察して行つたが

### 臺灣總督官房外事課

總隊は即ち閩西一帯に集中し、何時でも動員して敵軍を迎撃し得る筈であると。 (一九・八一 新聞日報)

### 三、龍雲と陳濟棠

雲南省は支那の邊境地方であるが、其の軍事的施設の基礎は清の末葉に早くも確立されたのである。即ち李經羲が雲南及貴州兩省に總督だつた時に、彼は日本陸士出身の優秀な軍幹部候補者を多數選派し同省軍務の督練に干與せしめるところがあつた。又既に故人となつた蔡松坡(鎔)唐繼堯兩上將は、現存の國民政府委員李協和(烈鈞)等と相並んで、雲南省軍建設上可なり有名な人である。蓋し既往の護國、護法諸役には雲南軍が常に中心勢力となつて働いて來たのである。即ち蔡唐李三人は雲南軍の建設に對し、實に千古不滅の勳功を樹てて來たのである。爾來雲南軍が常に小部隊を以て大軍團

タイプライター用紙



を撃破し遂に革命の大業を成就するに至つたが洵に宜なるかなである。

龍雲は唐繼堯の死後、之を繼承して起つた。彼は其の後よく先輩の遺志を遵行し、且つ自らも不斷の努力をして来たから今日此の頃となつても雲南軍は依然對日抗戦の中堅部隊として重ぜられるのである。蓋し雲南軍が支那國內到る處で官民の熱烈な歓迎を受けつつあるのは、取りも直さず同軍の聲價が昔日に較べて少しも劣らない證左である。今般雲南軍は、北支臺兒莊の殲滅戦に参加したが、未だ名聲を博するに至らない。併しながら方郊縣の一役では、敵軍主力部隊と邂逅接戦し、其の際稍々面目を施すことが出来た。尤も此の一戦では、敵友軍とも相當甚大な損失を受けたがそれでも倭賊軍としては、意外な苦杯を嘗めさせられるに至り雲南軍としては可なり聲價の維持増進が出来たわけである。

### 臺灣總督官房外事課

龍雲の對日抗戦方針は、陳濟棠治粵の理想と全く同じである。即ち濟棠は例の施政三ヶ年計畫に於て、重工業の創設發達を目論見、行く行くは之を利用して機械化部隊を十箇師位編成せむとした。又彼としては愈々對日抗戦を決行する曉には、自分も一部門の攻防工作を擔當する覺悟で居たからでもある。時到来れば必ずや倭賊軍に甚大な打撃を與へるに違ひない。併し乍ら惜むらくは、濟棠は其の志が未だ成らない前に失脚下野してしまつたのである。而して龍雲今日の出兵並に其の兵員補充方針は、少しも濟棠の志と異なるところがない。唯實際のところ、其の擁する兵力は左して多からず、而も其の裝備は餘程濟棠の理想から遠ざかるところがある。

龍雲は先月出兵續行問題の爲に、支那軍最高統帥者に電召され勇躍漢口へ赴いたが其の當時は中央當局者から格別の殊遇を受けた由である。又彼としても思ふ存分に意見を吐露した

ことであるから、政府當局者も妙なからず感動させられたと云ふ。而して龍雲は當局者に對し、如何なる事を建策したかは、固より記者の周知する限りではないが、國民政府は彼の歸任後間もなく、節約令を公布したから、世間ではよく之を龍雲の建議した事であると取沙汰する。蓋し彼は重慶を經由して漢口へ赴く頃、其の見聞した事柄は、悉く邊境地方で簡素な生活を送つて来たものの是認し難いものばかりである處から、支那軍最高統帥者に對し、軍事上講訓の序に、附帶言及するに至つた次第であらうと。

（一九・一二一 新聞日報）

#### 四、臺灣人上歸つて來い。

吾人は總ての臺灣人が亡恩者流であるとは言はない。又臺灣人に熱血な革命分子が全然ないとは言はない。併し乍ら今四の日支戦争を全面的に觀れば臺灣人の言動は實に妙なからず吾人

#### 臺灣總督官房外事課

をして心痛せしむるものがある。即ち彼等は支那の對日抗戰前に於て、日本の庇護を受けて、閩南地方の同胞を殺戮した事は敢へて之を述べる迄もない。又最近、廈門が容易に陥落したのも是等臺灣人が敵軍に内應をしたり、之を嚮導したりしたからである。尙又現在フィリッピンに於て對日ボイコットを破壊したり、敵人の爲めにスパイ的行動を執つたりするものも、是等臺灣人の仕業である。

彼等臺灣人は、賊を父と仰ぐのを、自ら以て光榮と考へつつあるも、彼等は如何に敵國に忠誠を盡しても、依然奴隷である事を悟らない。即ち臺灣人は、支那が抗戦しなければ、彼等は何時迄も奴隷であり、又支那が抗戦して失敗してしまへば、彼等は尙更永久に浮ばないが、唯だ支那が抗戦に成功した曉こそ彼等は日本から解放され、自由人と成り得るてう事理を知らないのである。而して臺灣人は此の通りであるが、朝鮮人も亦此の



通りであらう。斯かる利害關係は、八・九才の朝鮮人小學生で之を解すると見えて、彼は「日本人が高麗を併呑してから、既に三十餘年を経過した。日本人は暴虐な政治を施し、常に高麗人を壓迫して止まない。吾人は絶えず之に反抗し、既に數十回も革命獨立運動を起し、幾十萬人の生命を犠牲にした。現下は吾人の獨立運動に、絶好な機會である。故に吾人は切實に支那民族と聯絡し、日本帝國主義を打倒し、吾人の朝鮮國を回復し、支那の國土を保全し、世界弱小民族の解放に協同努力せねばならぬ。云々」と言つてゐた。「朝鮮小學生が支那小學生に與へた一通の信書に見えた一節」

支那此の度の偉大な民族戦争は、唯だ支那自身の自由及び解放を求めんとするばかりでなく、世界弱小民族の解放をも求めんとするものである。就中、日本帝國主義の鐵蹄下にある朝鮮人及臺灣人の爲めに、自由及解放を求めんとしつつあるのである

臺灣總督官房外事課

朝鮮人上、臺灣人上、吾人は均しく黄帝の子孫である。ですから吾人の闘争は、即ち諸君の闘争である。吾人の勝利は即ち諸君の勝利である。故に諸君は此の際勇敢な精神を以て速に抗日戦線に起つて來なければならぬ、而して若し、諸君が依然舊夢から醒めず、引續いて敵人を助けて、暴虐を爲さしめ、或は敵人の威力を藉つて、悪事を施にするならば、將來支那民族は必ず諸君を敵人並に漢奸と同一の墓穴へ送るであらう。さうすれば、諸君は受くべき制裁を受けることとなる。臺灣人上歸つて來るなら、歸つて來い云々と。

(一九・七一 新聞日報)

五、華僑の上半年送金額は三億元に達す

(香港通信) 一我が海外僑民が毎年諸外國より國許へ送金して來た金額は極めて多い。即ち支那對外貿易上の入超は之に依つ

タイプライター用紙

て立派にカバーされて来たのである。而して昨年對日抗戰が始つて以來、此の種華僑送金は、往年に比べて著しく増加して来た。之は支那の今日此の際に於て、巨額の軍費支出を要する實狀からすれば、實に對日抗戰上の一大助力であらねばならぬ。記者の調査したところに據れば、本年上半年に於ける華僑の本國送金額は、三億元に達した由にて、本年一年には少くとも、六億元を突破するだらうと觀られる。往年平時の場合に於ける、一年間の送金額は三億元程度であつたから、本年の送金額は之と比較べて、驚くべき増加であると言ふべきである。故に本年の入超も之に依つて立派にバランスが取れる筈である。此の點は對日抗戰の前途から觀て樂觀して可なり。の現象であると思はれる。而して本年華僑送金の増加した主要原因としては、(一)海外華僑が抗日救國に熱心であるところから、支那政府に對し巨額の寄附金等を醸出した事、(二)支那國內に於ける外貨爲替の相場が暴落

臺灣總督官房外事課

して来た事等であらう。

(一九二六年 新聞日報)

六、狂亂の重慶入りと「ポケット」政府

武漢三鎮は、曩に南京及徐州の失守を見て以來、動もすると落着きを缺いてゐたが、其の後宿松及黃梅が攻略されてからは、愈々動搖し、遂に政府の官員までが落着かなくなつてしまつた。國民黨各級黨部の幹部連は、武漢地方は九省の衝に當り、謂はば第二の近畿地方であるから、當然死力を盡して之を守り、苟しくも輕々しく早目に後退し、依つて以て敵人に弱いところを、見せてはならぬと反覆主張して来た。而して、第八路軍の將兵は、最も強硬に此の見解を力説し、會つては支那の軍事最高指揮者に對しても、右の趣旨を電稟するところがあつた。抑々首都の西遷地點に關しては、元來武漢及重慶の兩説が對立し、即ち極端な主張派は、之を武漢地方に移すべしと主張し、穩健派の人々は、之を重

タイプライター用紙

慶に遷すべしと力説した。斯く極端及穩健兩派は、夫々自説を固執して譲らなかつたから、最高指揮者は、止むを得ず彼此兩全の對案を採り、即ち國民政府を重慶に遷し、軍事及行政機關を武漢に移すことに決定し實行した。然るに近來、敵軍の進攻が愈々、武昌黃陂樓頭に、逼つて來つたことでもあり、例の極端及穩健兩派は又復國都の西遷問題に就いて、所見を異にするに至つたとか言はれる。尤も此の争いは新しい問題のやうで、實は古い問題の焼直しである。於是乎支那の最高指揮者は、乃ち幾日の主張にかへつて、軍事機關は絶対に、一步も之が移動を許さず、國府の行政以下各院は悉く西遷すべしと命令した由である。又別の隊では、最近最高指揮者は黨の大立物、並に第八路軍の幹部に對し、「抗戰建國は支那上下の一致主張するところである。而も元來、國政は一日と雖も、之を無爲に放任してはならぬのである。故に、若し國政機關を、敵軍の脅威が或は及ぶべき地點に移せば、支那の政令施設は、甚しく強

### 臺灣總督官房外事課

靱鋭敏を缺くに至る許りでなく、至ては軍旅の抗戰に全く役立たず建國の前途にも障礙となるであらう。抑々、三權分立の制度は、平時に適用せらるべきものであつて、戰時體制下の今日では、全然適用出來ない。即ち刻下は國民隊薪管裝の缺で、諸般の政費は、之を節約すべきであるから、支那の現存政治機構も當然其の規模を縮少しつつ、能率を増進しなければならぬ。然らざれば到底長期抗戰の本旨に副ふことが出來ない。曩に國內の有識者が屢々ポケット政府の形成を主張したが、之は取りも直さず、政治機構を改め、務めて節約を行ふてう二重の意義を有するものである。故に、武漢地方の政治機關を悉く重慶に西遷すべく、決定したのである。」と。之は汪精衛及孔祥熙が前後して重慶入りをした所以である。然るに黨政各派の領袖及第八路軍の幹部は、當初此の趣旨を解しなかつたので黨政機關の西遷を以て、武漢三鎮の放棄と解し、極力反對したと言はれる。

(一九・七一 新聞日報)

七、抗戰最中の福建省民

(福州通信) 一昔日「福の地」と稱へられた福建省も、今日此の頃では遂に、敵人の飛行機及大砲が撞に嘯號し、空前の大動搖を招来し、戰時狀態を露呈するに至つた。於是乎平素安逸な福建省に、憤れて來た豪商巨紳等はふるか、彼の戀歌醉舞に心を奪はれてゐた青年男女さへ、均しく覆巢の悲惨を痛感し、猛然として覺醒して來たのである。即ち省内各地に於ける婦女子の戰地宣傳隊乃至工作隊は、恰も雲の風に從つて湧出するが如くに、粉然として組織されるに至つた。是等許多の勇敢な婦女子は、現下福建省の抗戰後援會主席陳紫英に指導されつつ、實際の抗敵工作に従軍中であるから、此の點から觀ても、福建省は既に面目を一新し、抗日戰上に向つて嘯號し出したと云ふことが分る。

日本は大膽政策を實施し、依つて以て東方に覇を稱へたい見地から正義人道に反する行爲に没頭しつつあるが、彼等は其の究極に於て

臺灣總督官房外事課

大不祥焉たる所以を意に介しないで大舉支那を侵略して來たのである。元來福建省は南支の要地であつて、又臺灣とは一葉帶水の隔てにあるから、同省は久しい以前から、倭賊の虎視眈々たるどころであり、日本としては夙に併呑の底意はあつたものの、是れまでは乘ずべき隙がなかつたから、敢へて妄動はしなかつたのである。然れども、抗日戰爭が勃發してからは、敵人は南支各地を侵略すべく、積極的に企み、金門及廈門兩島の如きは、遂に敵軍の大砲及飛行機に曝され、到頭前後して失守してしまつた。而して倭寇の元兇たる松井石根には、<sup>薩</sup>薩を得て蜀を生むの慨があつて、行く行くは南支諸省をも物にしたいた野心から、其の國出先の特務機關をして、多數の漢奸乃至浪人を密派し避難民又は商人に變裝せしめ、省内奥地に潛入して、我が方の軍狀を偵察せしめつつあつた。加之、敵人は更に各種の神明會を組織し、依て以て省内人心の惑亂に努めたのである。又聽く處に據れば敵軍は三ヶ月前、臺灣より兵員二箇聯隊を移動し

同時に軍艦及飛行機をも、多数集めて来たが、之は海陸空軍が手分けをして、興化及泉州の沿海地方を占據し、然る後徐ろに、漳州及汕頭に攻め入る腹であると云ふ。然れ共、此の種迷夢は、我が方の周到な防備と敵軍側の兵力不足とに因つて、到底實現の可能性がない。殊に過般では、張鼓峰の日露衝突事件もあり、敵軍は中南支にある軍艦乃至陸兵を密かに北滿前線に移動したから、倭人の南支侵犯計畫は、或は春夜の夢に過ぎないかも知らぬ云々と。

(一九・二〇一 新聞日報)

#### 八、宋慶齡船中に於て奸人を擯にする

孫夫人宋慶齡は、夙に愛國の熱情に富み、昔から此の方類に、支那を強大な國家にすべく、努力して来た。而して孫夫人の主張主張に至つては、即ち親露抗日をモットーとし、彼は此のラインに沿ふて進まなければ、我が支那は其の新生命線を保つ譯には往

#### 臺灣總督官房外事課

かないと固執して譲らなかつたから、遂に日本側の非常な嫌視怨言を買ひ、遂には孫夫人をやつつけてしまはなければ承知しないと云ふ有様であつた。然れども孫夫人は、自分の現在處する立場を深く知り、過般香港に客居してからは、其の行衛を飄然として東移西遷し、一定しなかつたので、流石に頑強な敵人も、之を捕へるに術が無かつたのである。尤も、敵人の孫夫人に加害したい念は、益々募る一方で、決して止まない。最近孫夫人は、ある要務の爲めに、親しく余漢謀及吳鐵城と面談するの必要が生じたが側近者は先づ電話を以て先方に對し、往訪の豫定日時を知らせた而して余吳兩人は之を知るや、直に廣九鐵路華段管理局長李焜燾に對し、特別仕立の列車を準備する様命令したと言はれる。然るに孫夫人は萬全の見地から、懇と往訪の経路を變更し、即ちリヴァポルトで廣州市へ赴くことにした。孫夫人が其の當時に、帶同した従者は極少人数で、確か便衣の探偵が四人だけであつた。

ところが何ぞ料らん。此の孫夫人の微行計法が眞奸に知れ、日本側の特務機關に報告したので、後者は直に臺灣籍の奸人一名を選派した。件の奸人は、ピストル一挺を其の所有トランクに隠匿し孫夫人の後について乗船し、刺客せむとした。併し幸なる故、孫夫人に随行の一探偵は、早くも奸人の容貌が全く支那人に相似しなから、且つ其の動作が極めて奇怪であるのを看破した。尤も唯だ疑はしいと云ふだけでは、即座に身體検査をする譯にも往かなかつたから、兎も角之を嚴重監視することとした。其の直後例の探偵は船内のボーイを手先に使つて被疑者に食事の要否を尋ねさせ、其の發音を聴かせた處、奸人は果然馬脚を露してしまつた。即ち彼は廣東語を話せるも、畢竟臺灣語の發音から抜け切らないのである。於是乎探偵は船長に報告し、身體検査を要請したが果せる故、同人のトランクの中からピストル一挺を發見するに至つた。其の後件の奸人は一室に禁足され、嚴重に之を監視されたが

臺灣總督官房外事課

廣州市へ到着してから、其の身柄を太平分署に送り、ついで警察總局へ押送して、目下取調中であると。

(一九・一〇一 新聞日報)

九、泉州は開放後閩南の商業中心地となる

(香港通信) 福建省廈門の陥落して以來、同地の住民は悲慘にも、敵軍の蹂躪に遭つたので、商業は大部分停頓してしまつた。當地に於ける廈門筋の出店も、商品を仕入れ、廈門へ荷送りするのを中止した。最近廈門取引先からの來信に據れば、廈門は敵軍に強制占據されて以來、確かに死島化してしまひ、現在の人口は僅々占領前の十分の一に過ぎない。又商業は完全に停頓し、唯だ一部商店が敵人の脅迫に依つて、門を開き營業するものもあるも、之は殘留の商品ストックを投賣し、店仕舞の仕度をするに過ぎないものだと旨はれる。又同地の商店は、多くは廈門を二十里も距

タイプライター用紙

る泉州に集中移轉し、依然營業を續行しつつあるので、當地の厦門客商は、最近泉州方面より多數の注文に接した。按ずるに泉州は水陸輸送の便利な地方であるから、今日此の頃の情勢で進めば、同地は愈々厦門に取つて代はる可能性がある。記者は先日汕頭、厦門及福州を航行する、某社汽船の事務長を往訪したが、其の談話に據れば、近來香港より厦門へ仕向けられる商品は、確かに激減し、諸社主は大部分泉州に貨物を荷送りすることとなつたから、船會社の力でも既に泉州航路に船隻を増配した。尙又厦門海關の稅收は、殆んど絶無に近いから、同關關稅務司は、既に支那財政部の命令を體し泉州に赴いて同地分關の擴大強化に着手したと述べてゐると。

一九二六一 新國日報

十、第四路軍の新陣容

支那革命の策源地たる廣東は、往時から後方の要塞として認めら

臺灣總督官房外事課

れて來た。曩に江西省の南昌及瑞金が急を告げて以來、日本軍が々々粵漢鐵道の交通を遮斷すべく企み、恰も司馬昭の心を心とするいは、國人が皆其の大略を知る筈である。

廣東省の軍隊編制は、昔日では師を以て單位としたが、今日では即ち中央の戰時編制に従つて、軍を以て單位とすることとなつた。葉肇、鄧龍光、李漢魂、李振球、張瑞貴、張繼及其精銳等は、既に悉く軍費に昇進した。其の内にも、葉肇及鄧龍光は既往の抗日第一期作戰に於て、既に十二分に廣東人の精神を發揮し、久しく中外人士の稱揚するところとなつた。李漢魂は即ち西江及南韶連地方を襲し、屢々殊勳を著した。之が爲めか中央軍當局は、既に葉肇を軍團長に抜擢した。目前の李振球以下四軍長は未だ、抗日作戰にこそ参加しないが、彼等は孰れも拳を磨き、軍を磨り、勇躍敢へて一戦を辭しないと許りの勢である。按ずるに廣東軍人の精神及廣東省物資の豊富は、總て敵人をして一切の侵略企圖を撤棄するの止むな

タイフンイター川紙

(日本經濟界)

なきに至らしめるであらうと

(九・一〇一 新聞日報)

臺灣總督官房外事課

タイプライター用紙

(日本標準規格B.4)



英領馬來

一、華僑抗戰贖金三千三百萬元に達す

支那事變發生以來海峽植民地及馬來半島各地華僑籌賑祖國難民會が避難民救済或は戦傷者救護の名目の下に凡ゆる手段で以て在留華僑から搾り上げた金額は、目下開催中の各地籌賑會代表會議に報告された處に依ると、總額三千三百萬元で、之を各地方別に見ると新嘉坡の一千萬元をトツプに百萬元以上はスランゴール州の五百二十二萬元、ペラ州の四百七十一萬五千元、ジョホール四百二十六萬七千元、彼附三百二十三萬四千元、ネグリスマピラン百三十三萬元、馬拉加百三十二萬元で以下左の如き順となつてゐる。

パハン州 八〇五、〇〇〇元  
ケダー州 六七〇、〇〇〇

カラシ 四七五、〇〇〇  
パリリス 二八〇、〇〇〇  
ケランタン 二四三、〇〇〇  
トレンガヌ 二二〇、〇〇〇

臺灣總督官房外事課

而して今後の募集豫想額は月額にして新嘉坡の四十萬元を最高にペラ州が二十五萬元、ジョホール州十八萬元、ネグリスマピラシ州の六萬元其の他で今後各地籌賑會共感々華僑の搾取強化に全力を上げることになつてゐるが、但し前記募集額の中には去る五月以來各地籌賑會が各々其の管理區内の華僑各界に戸別的に強制しつつかある月掛献金の募集豫定額、並に救國公債の賣上額も含まれて居り、總額三千三百萬元とは云へ、支那法幣が今日既に星加坡三十弗以下に崩落してゐることより見て、之を海峽弗に換算すれば、全馬來二百萬の華僑在留民としては寧ろたるものと云はねばならない。而も蔣介石政權の没落は一級華僑民衆の間にも蔽ふべ

タイプライター用紙

からざる事實とされるに至つて華僑の献金熱は漸次衰へる一方では目下開催中の籌賑會代表大會の中心議題が専ら華僑の献金強化策に躍起となつてゐる事實を見ても明らかである。

(一〇、一五―新 日 紙)

## 二、双十節當日新嘉坡に於る華僑大會談

英領馬來及蘭領印度在住の八百萬華僑の代表者二百名は十月十六日に終了の新嘉坡双十節の會議に於て相互に支那の救済基金募集問題に關しよりよき諒解に到達した。抑々同會議は三日間を以て終了の處遂に一週間に及んだ次第である。

會議に於ける最大の決議は、南洋華僑救済基金委員會と呼ぶ中央救済基金團體の設立、本委員會の活動に依つて馬來群島に於て支那救済に關する絶對的取締り、委員會本部を新嘉坡に設立することであつた。

## 臺灣總督官房外事課

又代表者は英領馬來及蘭領印度へ來航せるものは豫め南洋華僑救済委員會の允可なく支那救済資金を募集すべからざる旨を決議し、右は自由公債の賣出し、支那への一切財政的申出に對しても之を通用することとした。

會議終了に先立ち、蘭印ヂャムピの H. O. F. S. O. H. H. B. は華僑は一層協力して事に當り、上下貴賤の區別を脱却すべしと強調した。南洋華僑女子中等學生は國歌を合唱した。最後に支那總領事高凌百は孫文の遺囑を讀上げ、今次事變に戦死せる支那將兵のため三分間黙禱を行つた。

因に南洋華僑救済委員會の新役員顔觸は左の如し

- |      |                 |        |
|------|-----------------|--------|
| 委員長  | Fah Kah Kee     | (新嘉坡)  |
| 副委員長 | Chung Sze Chuan | (マタビヤ) |
|      | Lee Cheng Chuan | (比律賓)  |
|      | Lam Bun Tien    | (新嘉坡)  |

タイプライター用紙

會計  
常任幹事

Ching Kee Sun	( 新嘉坡 )
Ho Poh Fan	( 馬拉加 )
Tan Chin Hian	( 新嘉坡 )
Ong Chuan Seng	( 比律賓 )
Lee Kong Chian	( 新嘉坡 )
Tan Siew Kee	( 安南 )
Tan Sam Toh	( 比律賓 )
Lee Chin Tiam	( 新嘉坡 )
Kow Say Huan	( )
Tan Eng Khiam	( )
Tan Jom Boey	( スランゴール州 )
Leong Sin Nam	( ペラ州 )
Wong Chong Kat	( スランゴール州 )
Chew Hian Swee	( 臺灣總督官房外事課 )
Lan Gek Chwee	( 彼南 )
Lee Haw Sek	( スランゴール州 )
Wong Yik Fong	( ネグリスムピラン州 )

( 110,171 ST )

三、臺灣の大根據地

(上海、十月十六日)

最近上海到着の旅行者によれば、臺灣嶋は今や日本戦略上の樞要地點の一となり、南支攻略が開始するまで日本兵站船及軍艦は日本、北支那、上海よりは殆んど連続的に着裏して居り、飛行機は臺灣に根據を有し機數増加の爲めに同嶋に集結してゐる。

南支攻略の際臺灣に於ける日本軍は六ヶ師團、計十二萬に上りこの中二ヶ師團が南支に上陸したと言はれる。

旅行者の言によれば、反英並反外感情を策する上の準備萬端整

(日本標準規格B.4)



ひ臺灣人間には英國及其の他外國人は盡く東亞より一掃せしめ、外人商館の閉鎖は臺灣に於ける一般經濟狀態の好轉を促進せしむるであらうと流布せられ居る由。(一一〇、一七一 ST)

四、英國長距離爆撃機五臺來星

十一月澳洲への記録的飛行を行つた後、英國王立空軍長距離機イカドズ・ウエルズリー爆撃機五臺は英國に帰還し、途中新嘉坡に寄港するであらう。新嘉坡に於てウエルズリー機が見られるのは之が最初であらう。

右長距離機の試みは現在ソ聯の飛行機によつてモスコイから北極經由加州サンジャシントーに至る六三〇五、七哩の世界長距離レコードを破らんとする航空史上の大壯舉である。

今四は埃及イスマイリアから澳洲の某地盤、悉らくメウイン又はクロンカリー、多分シドニーに至る諸着陸を敢行するもので、

右飛行は英國の爆撃機の可能性を發揮する 臺灣總督官房外事課 (一一〇、一七一 ST)

尙別報によれば、愈々十一月四日準備完了、同機はスエズ運河に臨んでイスマイラ飛行場に待機、グリニッチ標準時五日午前三時五分(日本時刻午後〇時五七分)澳洲に向け、埃及澳洲大編隊飛行の壯途に就いた (一一一、六一 臺日紙報)